

「学校外教育費用と入学祝いに関する実態調査」（平成14年度）

アンケート結果の概要

<お問い合わせ先> 国民生活金融公庫総合研究所 情報開発課
電話 03-3270-1361（内線519）
担当 須田
（夜間直通 03-3270-1384）

学校外教育費用に関する実態調査

学習塾、習いごとなどの受講割合が減少 ～必要性が高いものに費用と時間をかける

調査時期・対象	平成14年6月、「国の教育ローン」を平成14年2月に利用した世帯
有効回答数	3,689件（有効回答率30.8%）

～主な調査結果～

1 学校外教育の受講割合は2年連続で減少（本文3、4、5ページ）

学校外教育を受講している割合は、2年連続で減少し、全体で21.3%、高校生が38.5%、大学生が17.1%となった。世帯の年収が減少傾向にあることが背景にある。

学校外教育を受講していない子どもについてその理由をみると、「必要性を感じない」が34.2%、「費用の負担が重い」が28.2%となった。高校生をもつ世帯や年収が少ない世帯では「費用の負担が重い」と回答した割合が高くなっている。

2 高校生は受験準備、大学生はダブルスクール（本文6、7ページ）

学校外教育を受講している子どもについてその内容をみると、高校生は「学習塾、進学塾、予備校など」に通っている割合が46.1%に上った。大学生は「英会話学校、語学学校など」または「資格取得を目的とした学校」と回答した割合が相対的に高いほか、「文化教養関連の習いごと（絵画やピアノなど）」も少なくなかった。

学校外教育の1カ月当たりの受講回数は、高校生が6.8回、大学生が7.2回となった。また、1カ月当たりの受講時間は、高校生が11.2時間、大学生が11.3時間となった。

3 受講費用は高校生、大学生ともに年間22万円、大部分を保護者が負担（本文9、10ページ）

学校外教育にかかる年間費用は、高校生が22.2万円。大学生が22.3万円となった。「学習塾、進学塾、予備校など」が19.6万円、「家庭教師」が18.6万円、「資格取得を目的とした学校」が18.3万円などと費用負担が重くなっている。

受講費用の大部分は保護者が負担している。

入学祝いに関する実態調査

入学祝いをもらった世帯は9割以上～現金が圧倒的多数

調査時期・対象	平成14年6月、「国の教育ローン」を平成14年2月に利用した世帯
有効回答数	3,392件（有効回答率28.3%）

～主な調査結果～

1 入学祝いをもらった世帯は92%（本文13ページ）

平成14年4月に入学した子どもをもち、入学祝いをもらった世帯は91.6%に上った。入学先別では、大学95.8%、高校92.3%、短大90.6%となった。

2 現金・金券の合計は、高校生が平均10万円、大学生が同13万円（本文16ページ）

現金・金券の合計金額は高校生が平均10.1万円、大学生が同12.7万円となり、上級の学校になるほど多くなる傾向がみられる。

3 「子どもの祖父母」からの入学祝いは4～6万円（本文15、17ページ）

「子どもの祖父母」から現金・金券をもらった割合は8割前後に上る。また、ほかの贈り主の1人当たりの入学祝いの平均金額が1～2万円なのに対し、「子どもの祖父母」は4～6万円と高額となっている。

4 入学祝いのお返しを負担に感じる割合は64%（本文18ページ）

入学祝いの習慣について、「あったほうがよい」とした世帯の割合は36.8%、「なくしたほうがよい」とした世帯の割合は16.6%となった。
入学祝いのお返しを負担に感じている世帯の割合は64.1%に上った。

平成15年2月17日

学校外教育費用と入学祝いに関する実態調査結果について

学校外教育費用に関する実態調査結果について

入学祝いに関する実態調査結果について

国民生活金融公庫総合研究所

学校外教育費用に関する実態調査結果について

調査要領、回答世帯の概要

調査結果

- 1 学校外教育の受講状況
 - (1) 学校外教育の受講状況
 - (2) 学校外教育を受講している割合の推移
 - (3) 学校外教育を受講していない理由
- 2 学校外教育の受講の実態
 - (1) 受講内容
 - (2) 1カ月当たりの受講回数と受講時間（在学先別）
 - (3) 1カ月当たりの受講回数と受講時間（受講内容別）
- 3 受講費用の実態
 - (1) 受講費用
 - (2) 受講費用の負担者

調査要領、回答世帯の概要

1 調査要領

調査対象：「国の教育ローン」を平成14年2月に利用した世帯
実施時期：平成14年6月
発送件数：11,993件
回収数：3,689件（回収率30.8%）

「国の教育ローン」の概要

利用対象
世帯の年収が990万円（事業所得者は770万円）以内（注）で、下記の学校に入学・在学する子どものいる世帯。
・高校、高等専門学校
・短大、大学、大学院
・専修・各種学校、予備校など
・海外の学校（高校、短大、大学など）
・その他職業能力開発校などの教育施設
（注）平成14年4月から所得制限額は1,210万円から990万円（事業所得者は990万円から770万円）へ引き下げられた。

融資額

学生・生徒1人当たり200万円以内

用途

・入学費用（学校納付金、受験費用など）
・在学費用（授業料、アパートの家賃、通学費など）

2 集計対象にした子どもの在学先（単位：％）

高校生	専修・各種学校生	短大生	大学生	その他
20.9	18.7	7.2	48.0	5.2

（参考）回答世帯の概要

（1）主たる家計維持者の職業（単位：％、以下同じ）

勤務者	個人事業主	法人経営者	その他
77.9	13.2	6.7	2.2

（2）主たる家計維持者の年齢

44歳以下	45～49歳	50～54歳	55歳以上	平均
14.0	36.5	37.9	11.6	49.5歳

（3）世帯の年収（平成13年）

200万円未満	200万円以上400万円未満	400万円以上600万円未満	600万円以上800万円未満	800万円以上1,000万円未満	1,000万円以上	平均
4.7	10.5	22.3	27.9	21.3	13.3	673.1万円

（注）今回の調査対象世帯が「国の教育ローン」を利用した時点の所得制限額は1,210万円（事業所得者は990万円）である。

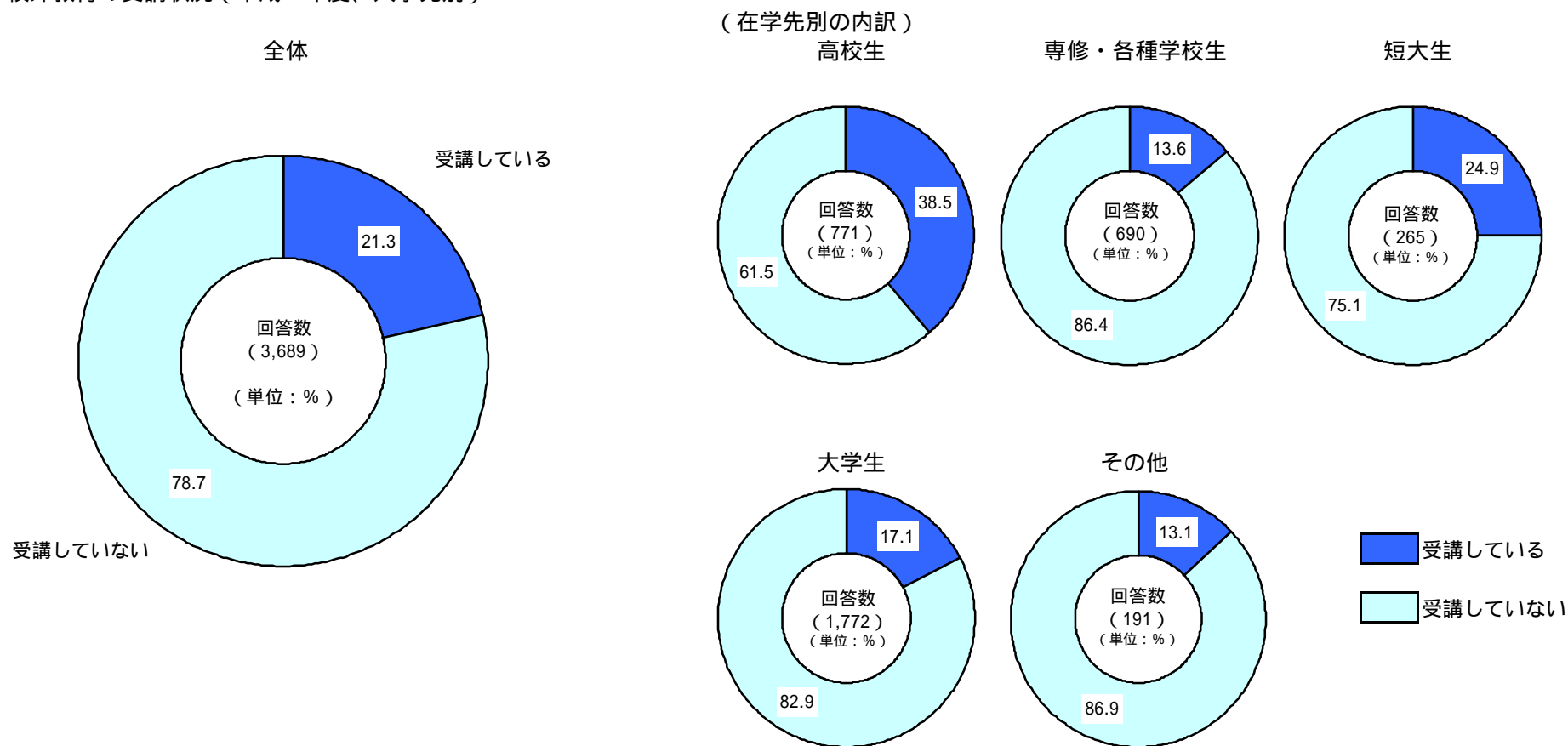
調査結果

1 学校外教育の受講状況

(1) 学校外教育の受講状況 - 学校外教育を受講している子どもの割合は21% -

学校外教育を受講している子どもの割合は21.3%となった(図-1)。とくに高校生は38.5%と最も多く、短大生(24.9%)、大学生(17.1%)と続く。

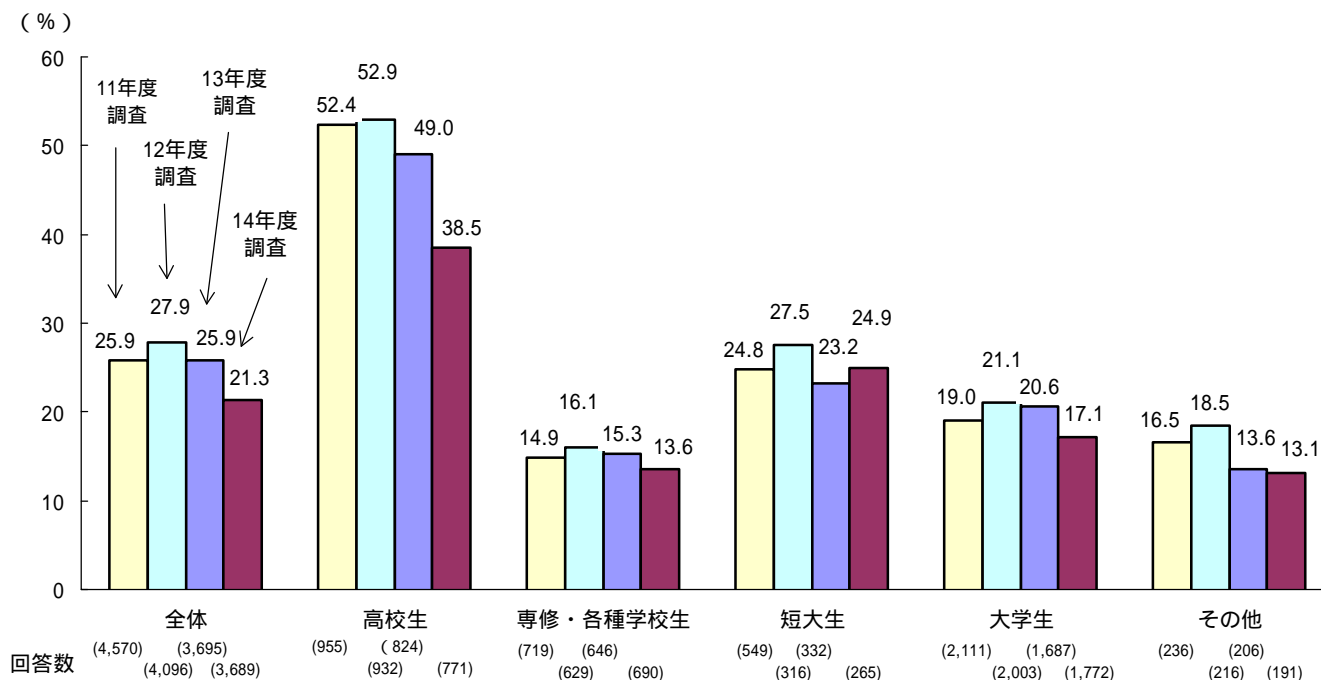
図-1 学校外教育の受講状況(平成14年度、入学先別)



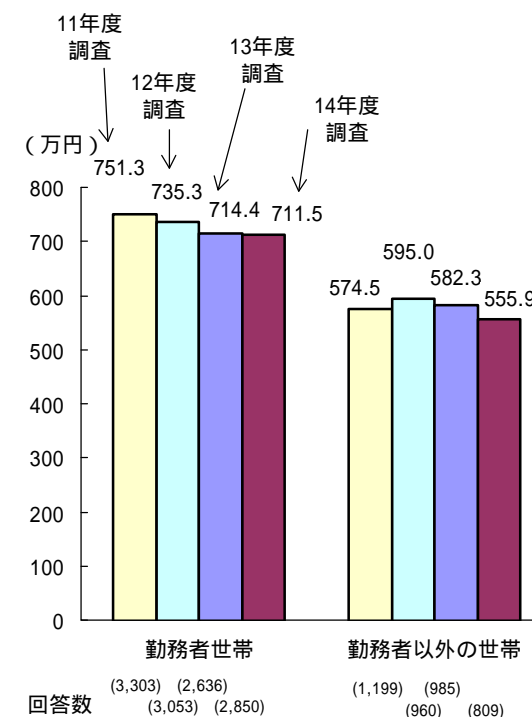
(2) 学校外教育を受講している割合の推移 - 受講割合は2年連続で減少している -

学校外教育を受講している子どもの割合は前年度比で4.6ポイント低くなり、2年連続で減少した(図-2)。とくに高校生は前年度調査より10.5ポイントも減少した。世帯の年収が減少傾向にあることから、学校外教育にかかる費用を節約しようという傾向がみられる(参考図)。

図-2 学校外教育を受講している割合



(参考図) 世帯の年収の推移



注: 集計対象である子どもについて、学校外教育費を計上している世帯の割合である。

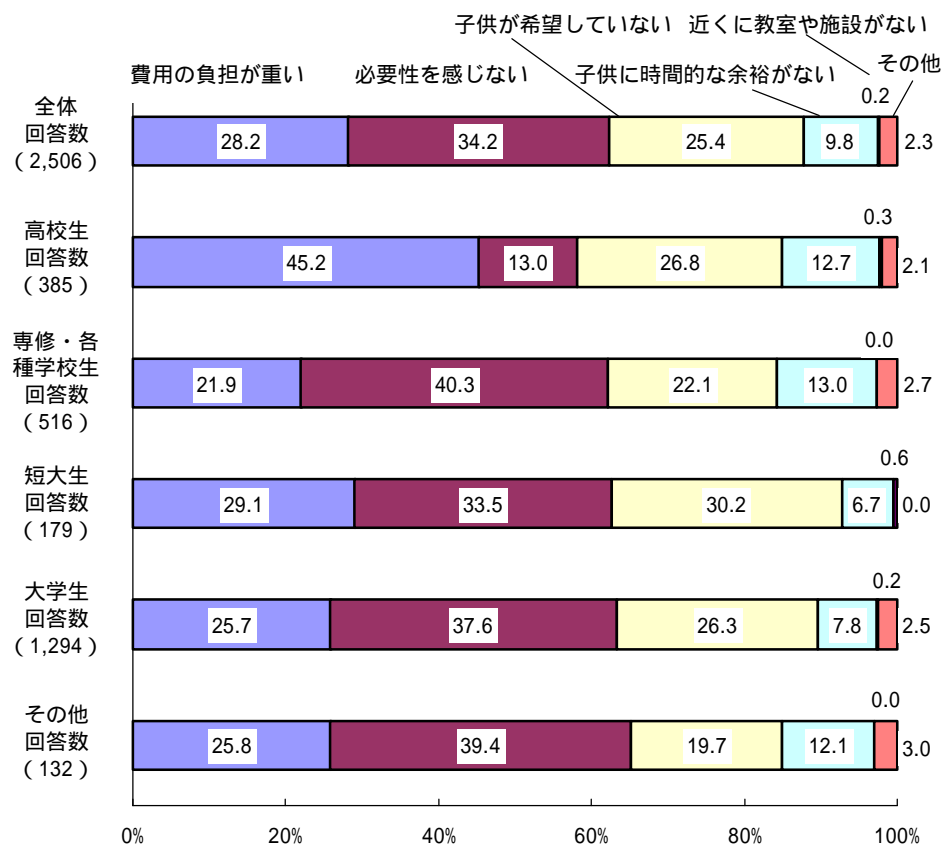
注: 「勤務者以外の世帯」とは、「個人事業主」、「法人経営者」、「農林漁業を営んでいる者」などである。

(3) 学校外教育を受講していない理由 - 「費用の負担が重い」と「必要性を感じない」が多数 -

回答者数全体の78.7%を占める、学校外教育を受講していない子どもについてその理由を在学先別にみると、高校生では「費用の負担が重い」が45.2%と半数近くを占め、「必要性を感じない」は13.0%にすぎなかった(図-3)。一方、専修・各種学校生と大学生では「必要性を感じない」が4割前後となった。

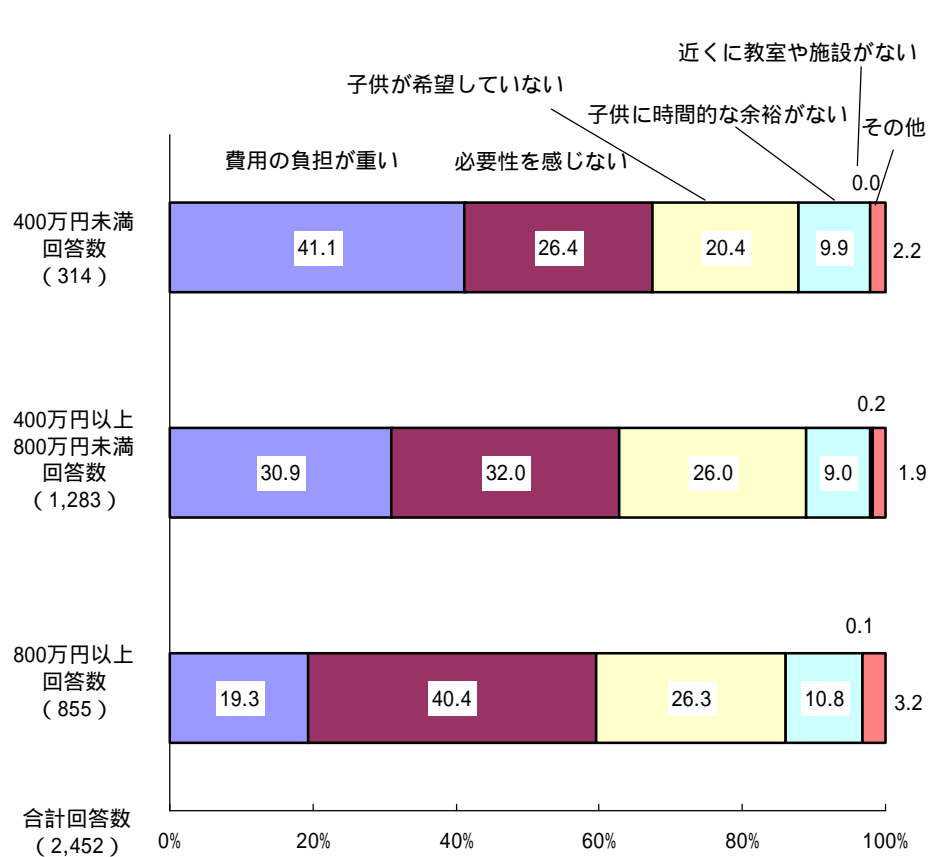
世帯の年収別にみると、年収が低いほど「費用の負担が重い」と回答した割合が高い(図-4)。

図-3 在学先別にみた学校外教育を受講していない理由



注：集計対象である子どもが学校外教育を受けていない世帯を対象に集計した。

図-4 世帯の年収別にみた学校外教育を受講していない理由



注：図-3と同じ。

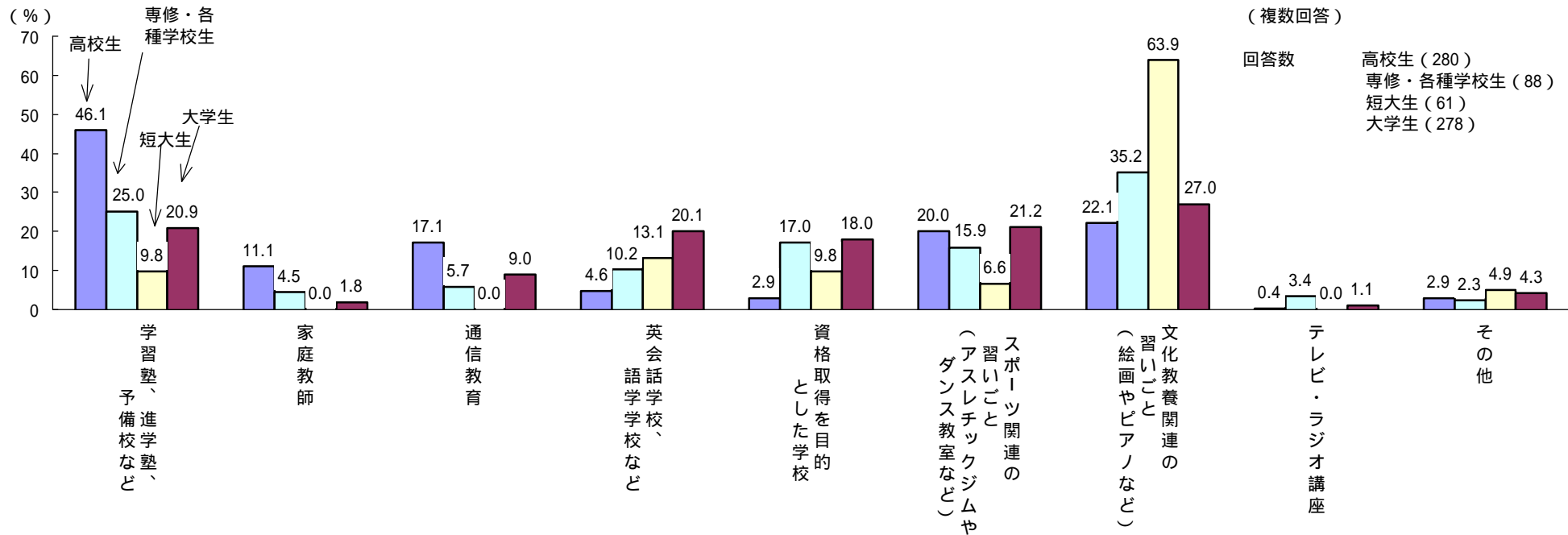
2 学校外教育の受講の実態

(1) 受講内容 - 「学習塾、進学塾、予備校など」が多い高校生、「英会話学校、語学学校など」「資格取得を目的とした学校」が多い大学生 -

回答者数全体の21.3%を占める、学校外教育を受講している子どもについてみると、受講内容は在学先によって差がみられる(図-5)。高校生は、「学習塾、進学塾、予備校など」(46.1%)、「家庭教師」(11.1%)、「通信教育」(17.1%)の割合が、大学生などに比べて高くなった。大学生は、「英会話学校、語学学校など」(20.1%)、「資格取得を目的とした学校」(18.0%)の割合が相対的に高く、大学生のダブルスクールが少なくないことがうかがえる。

「文化教養関連の習いごと(絵画やピアノなど)」は、在学先を問わず高い割合となった(図-5)。とくに短大生は63.9%にも上った。学業だけでなく、子どもの趣味や特技も大事にしたいと考えている世帯が少なくないことがうかがえる。

図-5 在学先別にみた学校外教育の受講内容



注：学校外教育を受講している子どもについてみたものである。

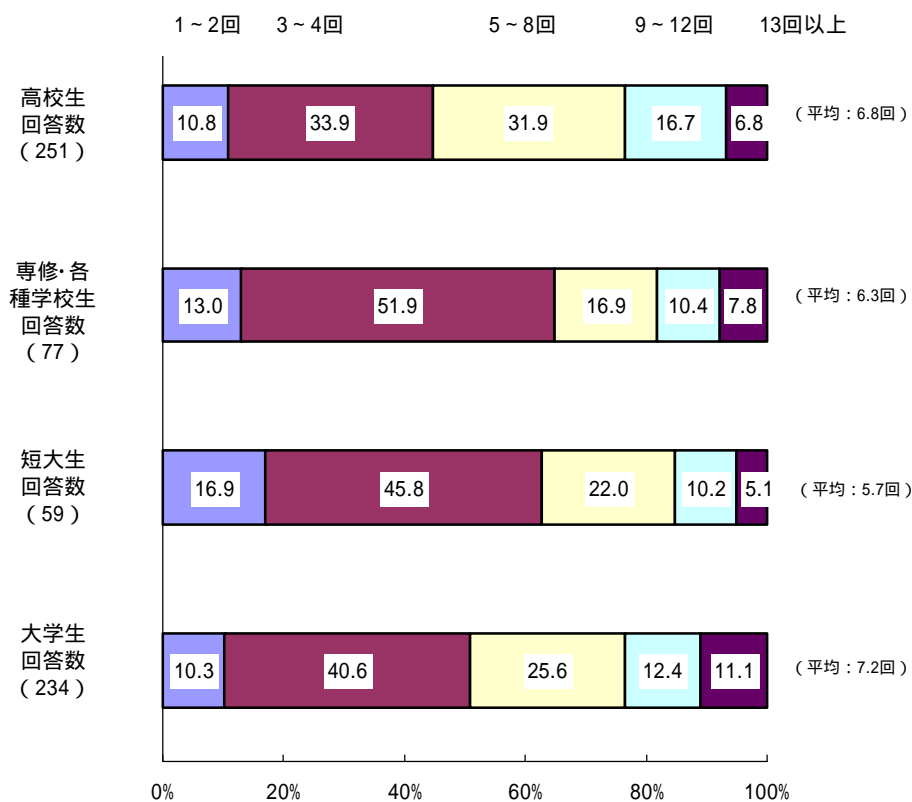
(2) 1カ月当たりの受講回数と受講時間(在学先別) - 高校生、大学生ともに7回、11時間 -

学校外教育の1カ月当たりの受講回数は、高校生が平均6.8回、大学生が同7.2回となった(図-6)。

学校外教育の1カ月当たりの受講時間は、高校生が平均11.2時間、大学生が同11.3時間となった(図-7)。

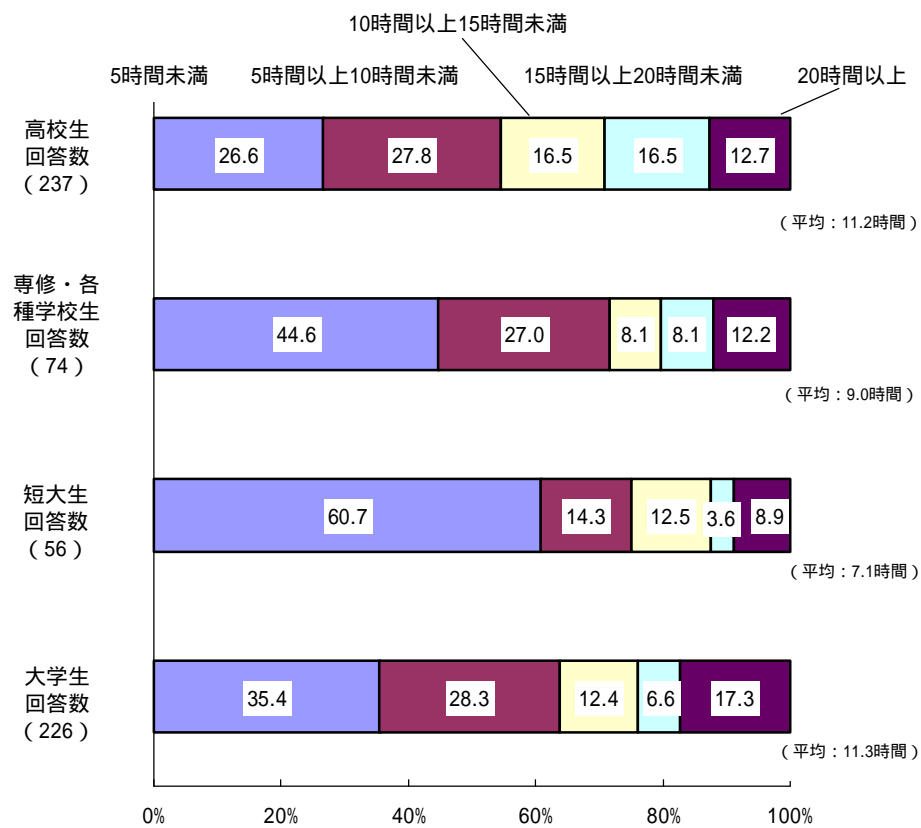
大学生は受講回数が13回以上、受講時間が20時間以上である割合が高校生などに比べて高く、一部に学校外教育を熱心に受講している子どもがいることがうかがえる(図-6、7)

図-6 学校外教育の受講回数(子供1人、1カ月当たり)



注: 図-5と同じ。

図-7 学校外教育の受講時間(子供1人、1カ月当たり)



注: 図-5と同じ。

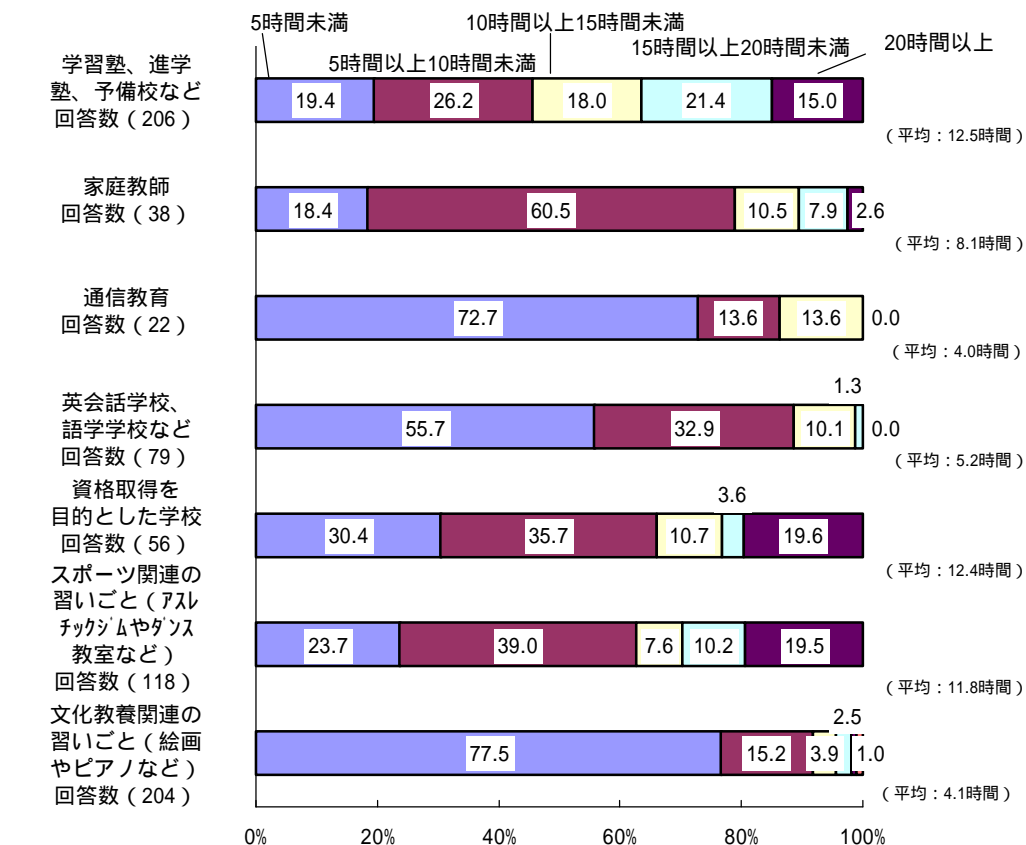
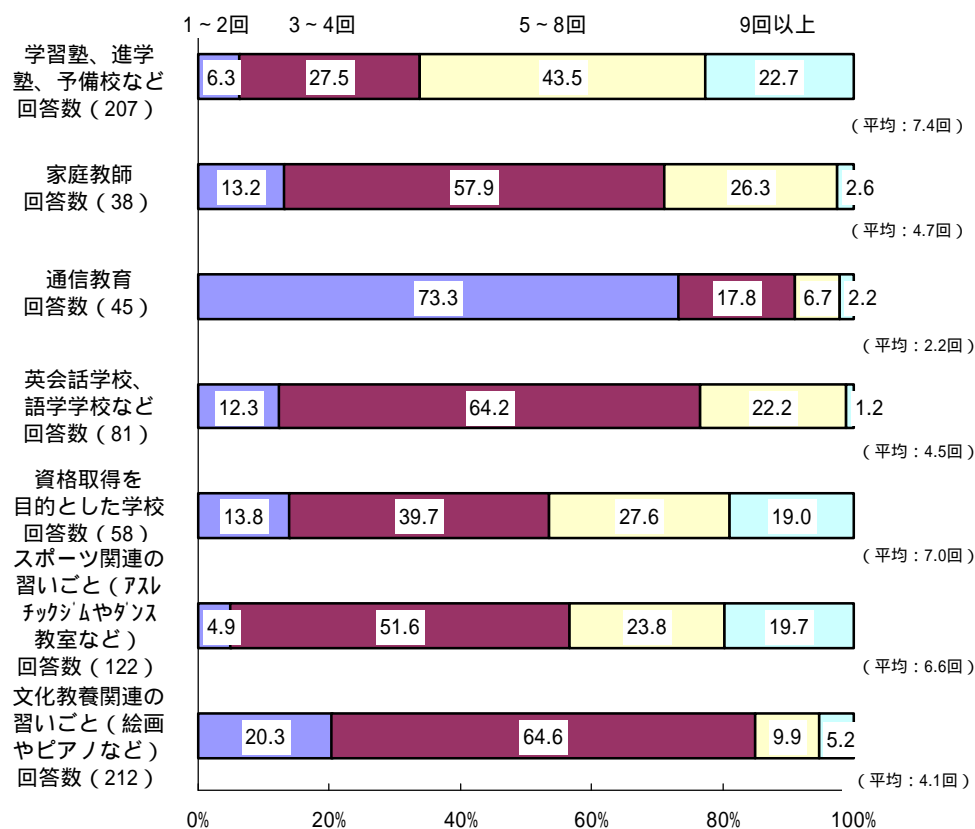
(3) 1カ月当たりの受講回数と受講時間(受講内容別) - 「学習塾、進学塾、予備校など」は7回、13時間、「資格取得を目的とした学校」は7回、12時間 -

受講内容別に1カ月当たりの受講回数及び受講時間をみると、「学習塾、進学塾、予備校など」(7.4回、12.5時間)、「資格取得を目的とした学校」(7.0回、12.4時間)、「スポーツ関連の習いごと(アスレチックジムやダンス教室など)」(6.6回、11.8時間)の順が多い(図-8、9)。

「学習塾、進学塾、予備校など」と「資格取得を目的とした学校」では、「20時間以上」の割合がそれぞれ15.0%、19.6%となっており、一部の子どもは学校外教育に長い時間をかけている姿がうかがえる。(図-9)

図-8 学校外教育の受講回数(子供1人、1カ月当たり)

図-9 学校外教育の受講時間(子供1人、1カ月当たり)



注: 「テレビ・ラジオ講座」、「その他」については、サンプル数が少ないため省略した。

注: 図-8と同じ。

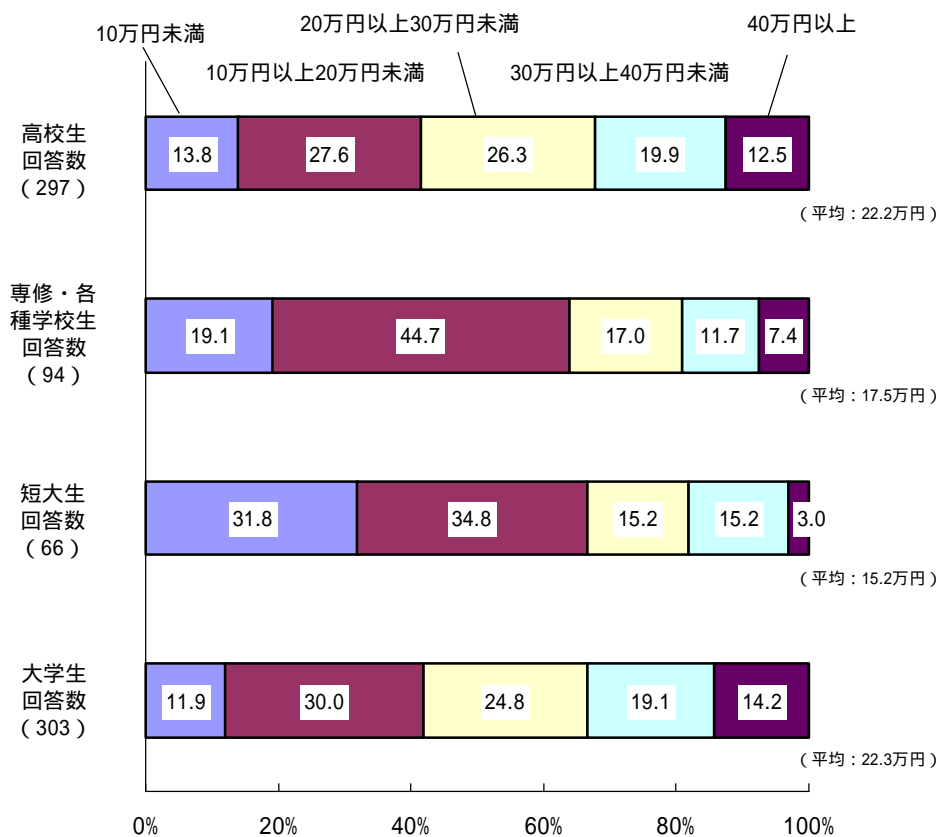
3 受講費用の実態

(1) 受講費用 - 高校生、大学生ともに年間22万円 -

学校外教育にかかる年間費用は、高校生が平均22.2万円、大学生が同22.3万円となった（図 - 10）。

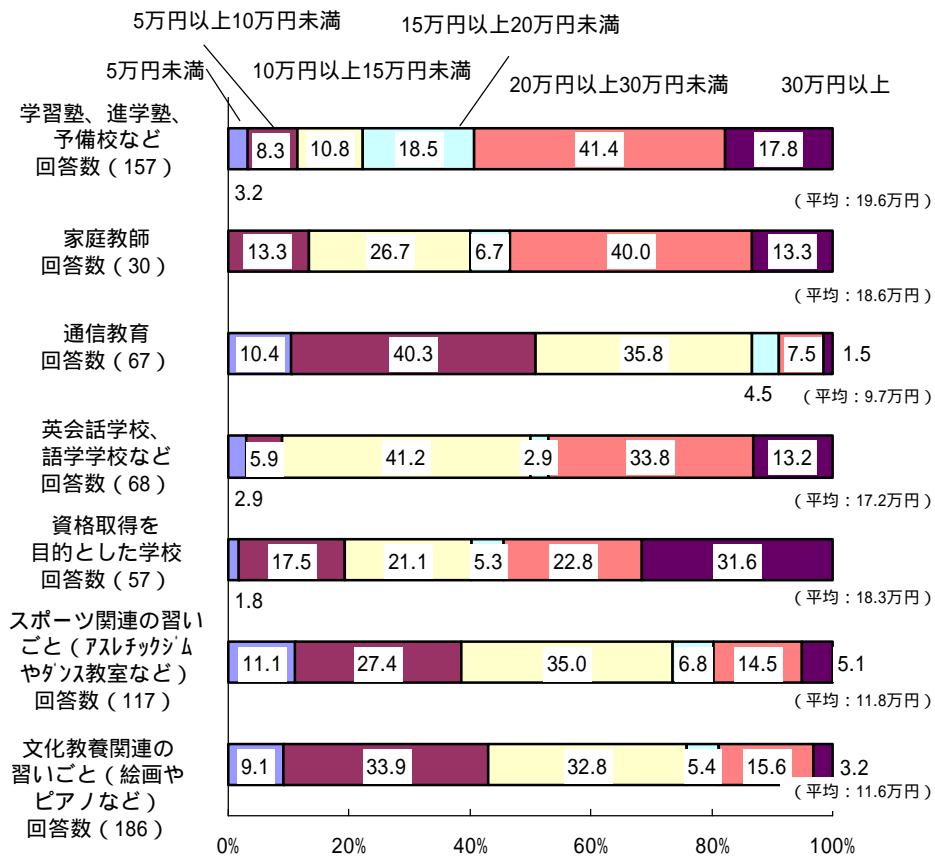
受講内容別の年間費用は、「学習塾、進学塾、予備校など」が平均19.6万円、「家庭教師」が同18.6万円、「資格取得を目的とした学校」が同18.3万円、「英会話学校、語学学校など」が同17.2万円となり、費用の負担は重い（図 - 11）。とくに、「資格取得を目的とした学校」で30万円以上の割合が31.6%に上る点が注目される。

図 - 10 学校外教育の受講費用（在学先別、子供1人、年間）



注：図 - 5 と同じ。

図 - 11 学校外教育の受講費用（受講内容別、子供1人、年間）



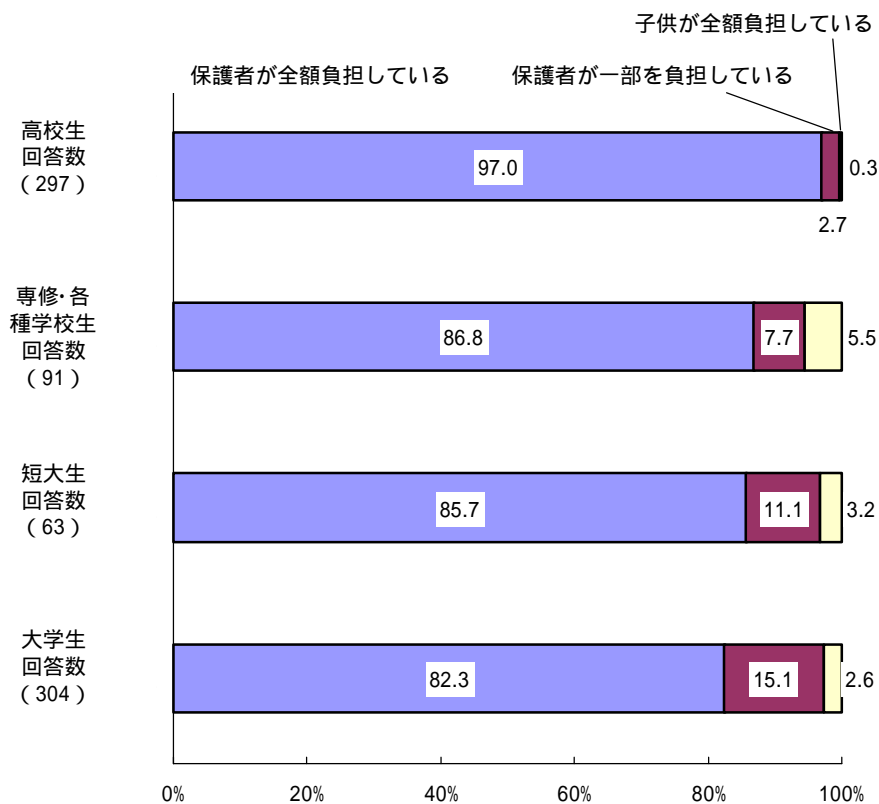
注：図 - 8 と同じ。

(2) 受講費用の負担者 - 大部分を保護者が負担 -

学校外教育の受講費用は、ほとんどが保護者の負担となっている(図-12)。「保護者が全額負担している」とする割合は、高校生で97.0%を占め、大学生でも82.3%に上る。

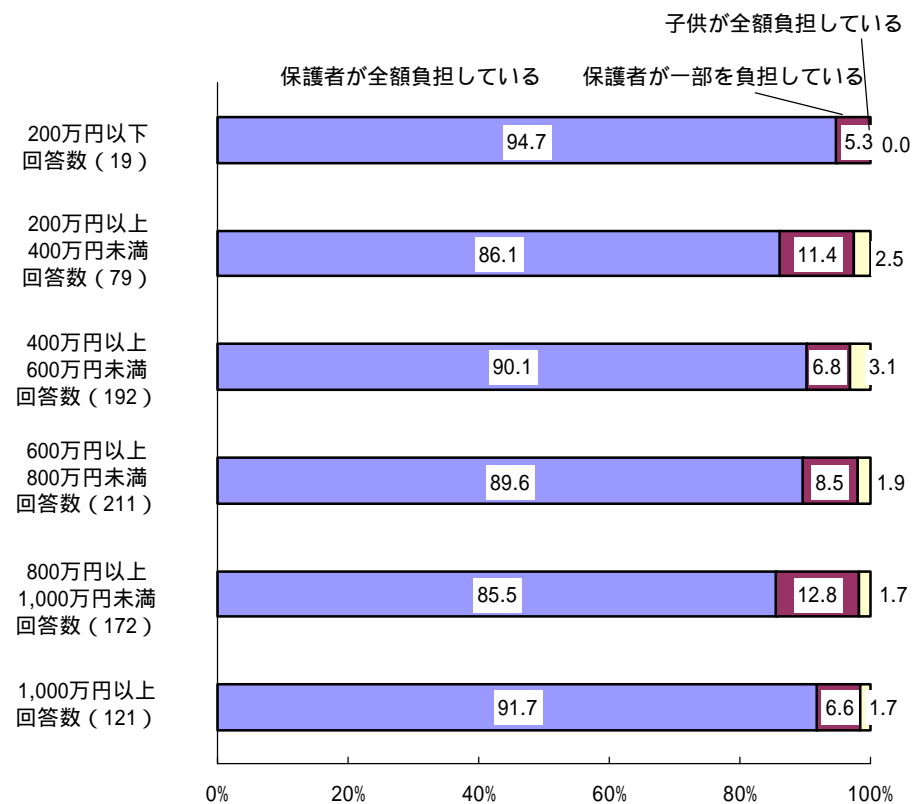
世帯の年収の多寡で顕著な差はみられない。保護者が一部でも「負担している」とする割合は、世帯の年収が「200万円以下」(100.0%)、「800万円以上」(98.3%)で比較的高くなっている(図-13)。

図-12 学校外教育の受講費用の負担者



注：図-5と同じ。

図-13 世帯の年収別にみた学校外教育の受講費用の負担者



注：図-5と同じ。

入学祝いに関する実態調査結果について

調査要領、回答世帯の概要

調査結果

- 1 入学祝いの実態
 - (1) 入学祝いもらった割合は92%
 - (2) 入学祝いとしてもらったもの
- 2 入学祝いにもらった現金・金券の実態
 - (1) 現金・金券の贈り主
 - (2) 現金・金券の平均合計金額
 - (3) 現金・金券の贈り主1人当たりの平均金額とお返しの状況
 - (4) 入学祝いをもらう側の意識

調査要領、回答世帯の概要

1 調査要領

調査対象：「国の教育ローン」を平成14年2月に利用した世帯
実施時期：平成14年6月
発送件数：11,993件
回収数：3,392件（回収率28.3%）

「国の教育ローン」の概要

利用対象
世帯の年収が990万円（事業所得者は770万円）以内（注）で、下記の学校に入学・在学する子どものいる世帯。

- ・高校、高等専門学校
- ・短大、大学、大学院
- ・専修・各種学校、予備校など
- ・海外の学校（高校、短大、大学など）
- ・その他職業能力開発校などの教育施設

（注）平成14年4月から所得制限額は1,210万円から990万円（事業所得者は990万円から770万円）へ引き下げられた。

融資額

学生・生徒1人当たり200万円以内

用途

- ・入学費用（学校納付金、受験費用など）
- ・在学費用（授業料、アパートの家賃、通学費など）

2 集計対象にした子どもの入学先（平成14年4月入学）（単位：％）

中学校	高校	専修・各種学校	短大	大学	その他
3.4	23.6	16.0	7.1	45.1	4.8

（注）集計対象にした子どもは、今回、「国の教育ローン」の利用の対象となった子どもとは必ずしも一致しない。

（参考）回答世帯の概要

（1）主たる家計維持者の職業（単位：％、以下同じ） （2）主たる家計維持者の年齢

勤務者	個人事業主	法人経営者	その他
77.4	13.1	6.6	2.9

44歳以下	45～49歳	50～54歳	55歳以上	平均
14.3	37.3	37.4	11.0	49.4歳

（3）世帯の年収（平成13年）

200万円未満	200万円以上 400万円未満	400万円以上 600万円未満	600万円以上 800万円未満	800万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上	平均
4.7	10.5	22.9	27.2	21.9	12.8	676.3万円

（注）今回の調査対象世帯が「国の教育ローン」を利用した時点の所得制限額は1,210万円（事業所得者は990万円）である。

調査結果

1 入学祝いの実態

(1) 入学祝いをもらった割合は92%

平成14年4月に入学した子どもをもつ世帯において、入学祝いを「もらった」と回答した割合は91.6%となった(図-1)。入学先別にみると、大学の割合が95.8%ともっとも高く、高校(92.3%)、短大(90.6%)と続く(図-2)。

図-1 入学祝いをもらったかどうか

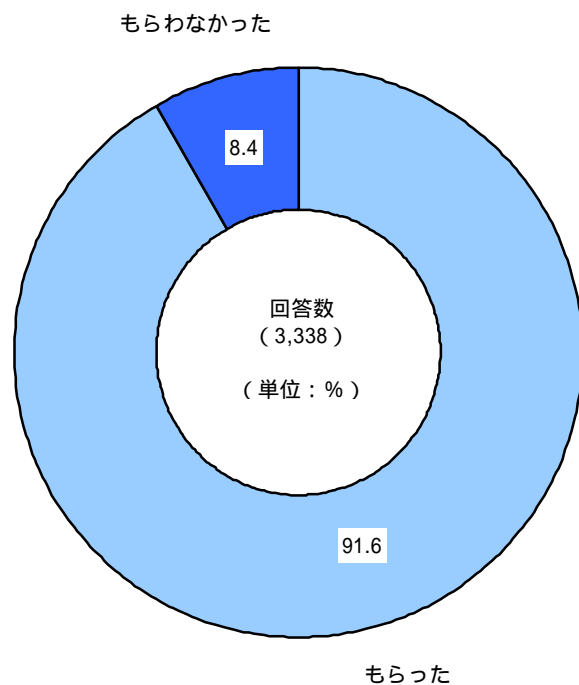
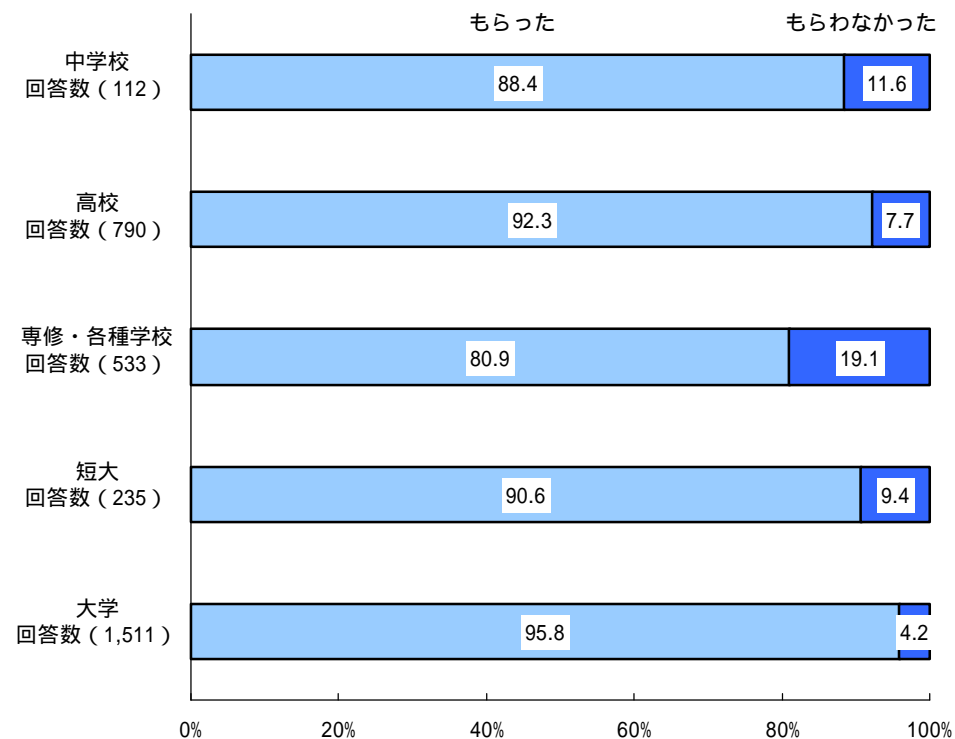


図-2 入学祝いをもらったかどうか(入学先別)



(2) 入学祝いとしてもらったもの - 贈り主は入学祝いとして無難な「現金」を選ぶ傾向がうかがえる -

入学祝いとしてもらったものは、「現金」(89.1%)が圧倒的に多く、以下、「金券(図書券・文具券・商品券など)」(21.6%)、「生活用品(電気製品・衣類など)」(15.7%)と続く(図-3)。贈り主は、もらう側の嗜好が分かるものを避け、無難な「現金」を入学祝いに選ぶ傾向がうかがえる。

もらったものを入学先別にみると、「現金」の割合はいずれの入学先でももっとも高い(図-4)。「金券(図書券・文具券・商品券など)」、「趣味・娯楽用品(スポーツ用品・オーディオ機器など)」、「学用品(万年筆・机・辞書・腕時計など)」については中学校及び高校が相対的に高く、「生活用品(電気製品・衣類など)」は短大及び大学が高い(図-4)。

図-3 入学祝いとしてもらったかどうか

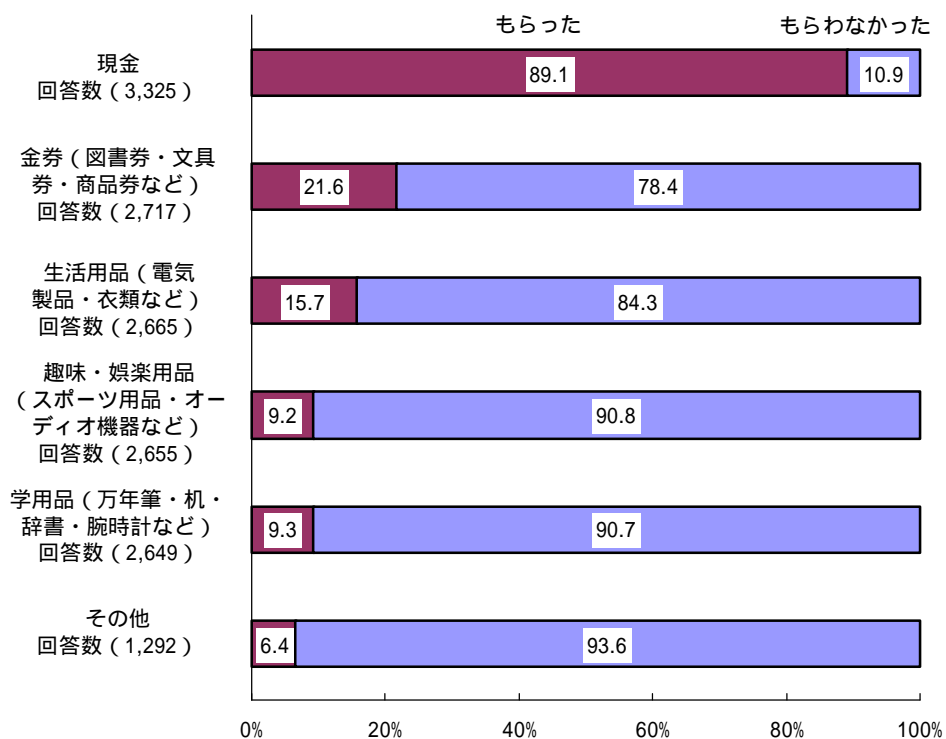
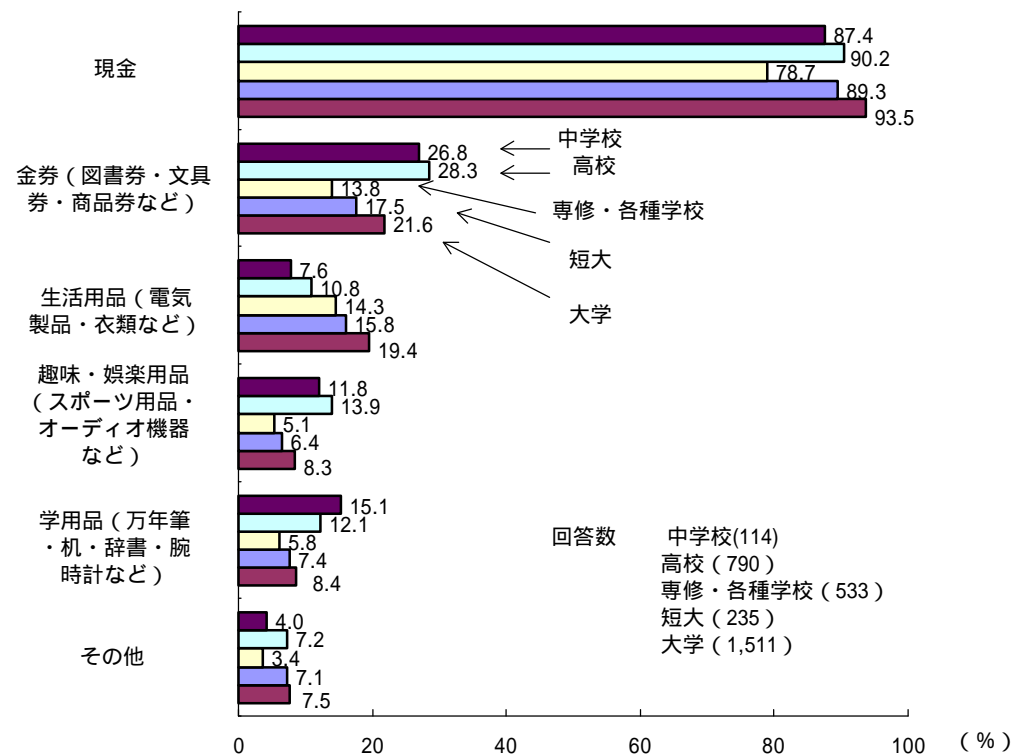


図-4 入学祝いとしてもらった割合(入学先別、複数回答)



2 入学祝いにもらった現金・金券の実態

(1) 現金・金券の贈り主 - 「子どもの祖父母」から現金・金券をもらった割合は8割 -

現金・金券をもらった子どもについて入学先別に贈り主の人数をみると、上級の学校になるほど多い(図-5)。

いずれの入学先でも、「子どもの祖父母」から現金・金券をもらった割合は8割前後に上る。「子どものおじ・おば」、「その他の親類」からももらった割合は、上級の学校になるほど高まる傾向がみられる(図-6)。

図-5 現金・金券の贈り主の人数(入学先別)

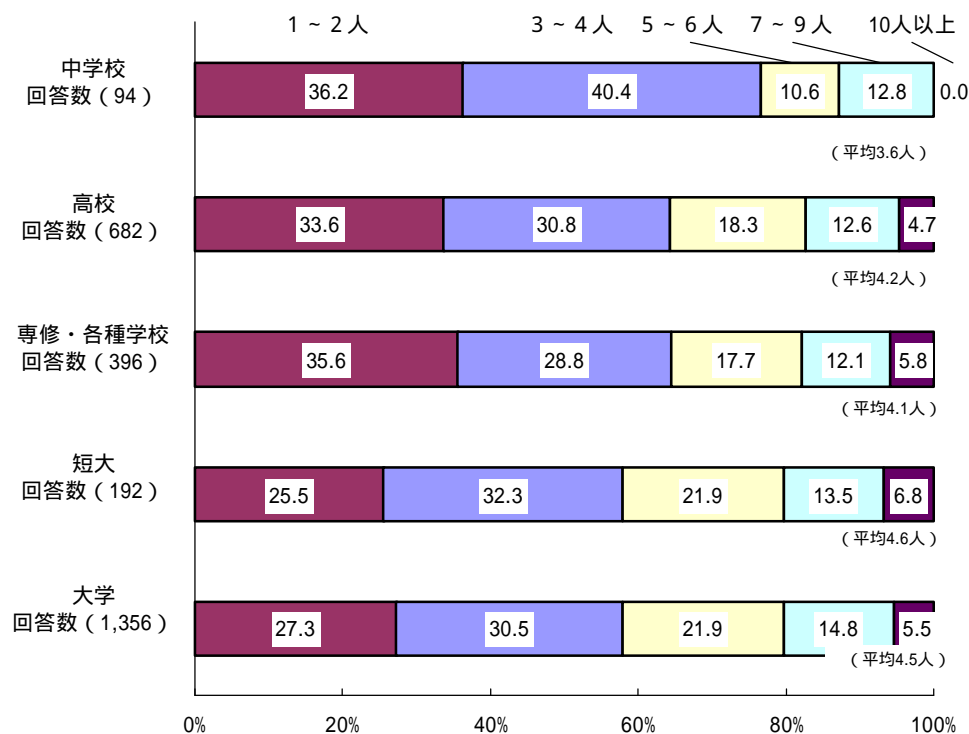
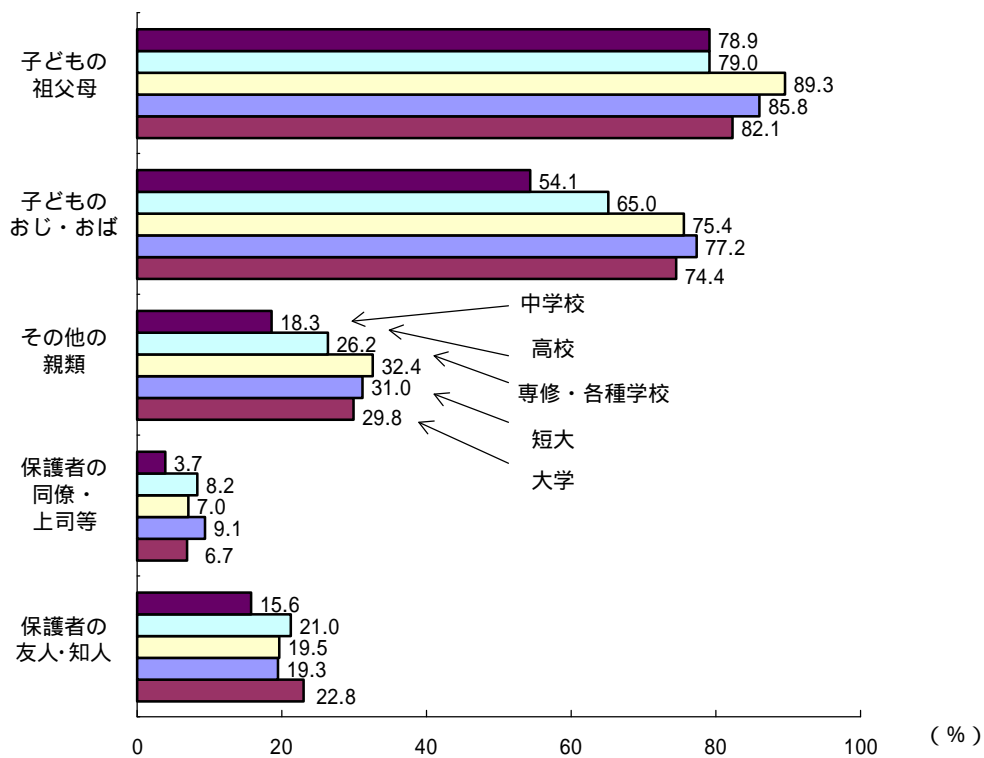


図-6 現金・金券の贈り主の割合(入学先別、複数回答)



注： 現金・金券を入学祝いとしてもらった世帯について集計した。

注： 図-5と同じ。

(2) 現金・金券の平均合計金額 - 高校生は平均10万円、大学生は同13万円 -

もらった現金・金券の合計金額は、上級の学校になるほど多くなる傾向がみられる。高校は平均10.1万円、大学は同12.7万円となった(図-7)。

構成比をみると、中学校、高校及び専修・各種学校では、5万円未満が3割前後なのに対し、短大及び大学では20万円以上が2割を超えている(図-8)。

図-7 入学祝いとしてもらった現金・金券の平均合計金額(入学先別)

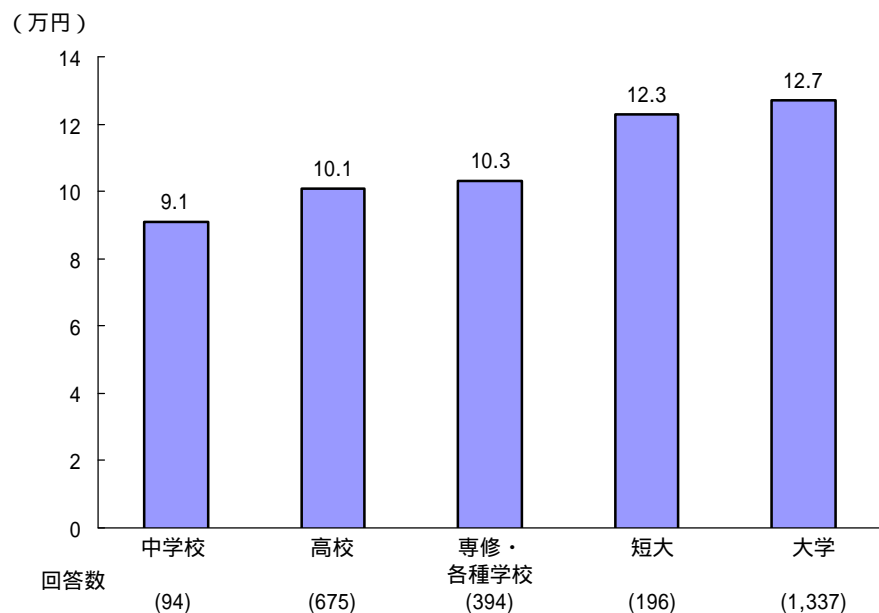
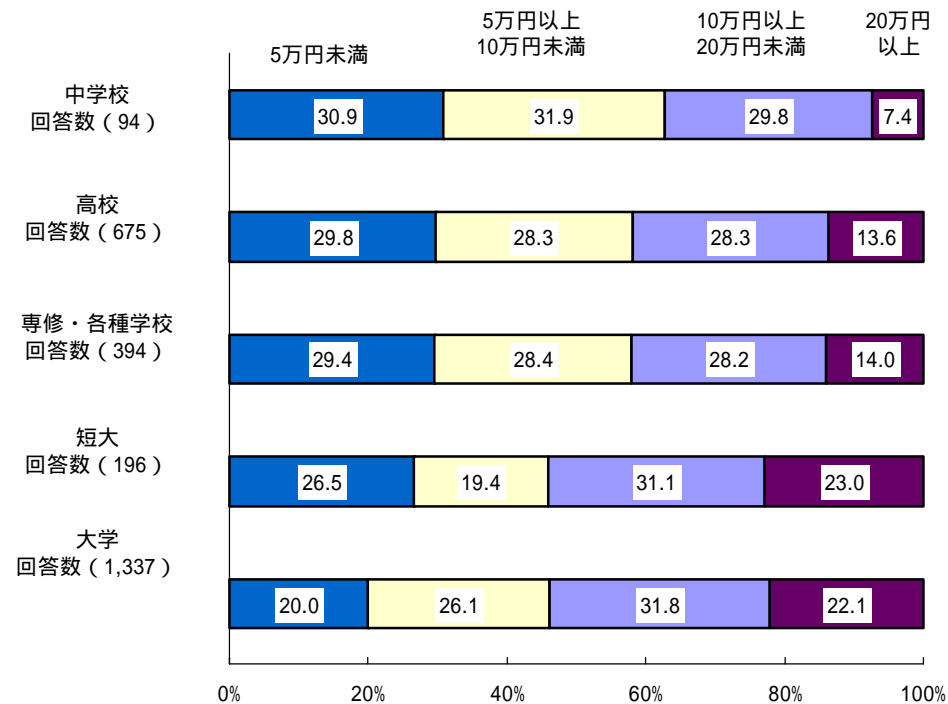


図-8 入学祝いとしてもらった現金・金券の合計金額(入学先別)

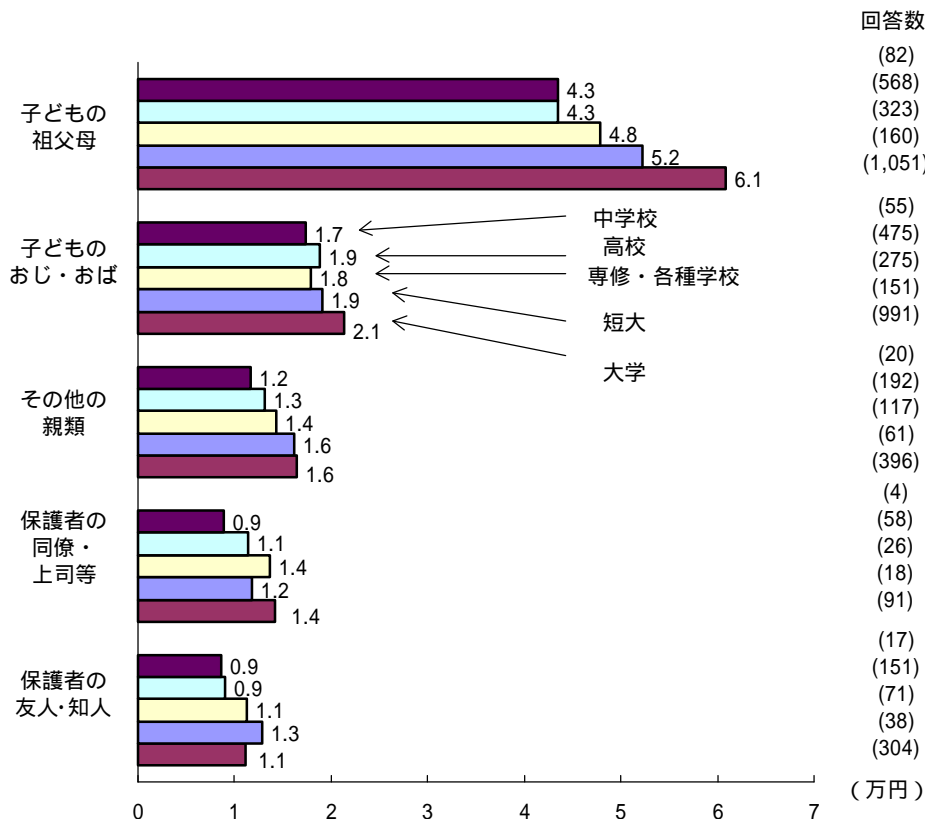


(3) 現金・金券の贈り主1人当たりの平均金額とお返しの状況 - 「子どもの祖父母」は4～6万円、その他は1～2万円 -

贈り主1人当たりの平均金額をみると、「子どもの祖父母」からは、4～6万円とかなり高額な金額をもらっており、上級の学校ほど金額が大きくなった。「子どものおじ・おば」は2万円前後、その他の贈り主は1万円前後となった(図-9)。

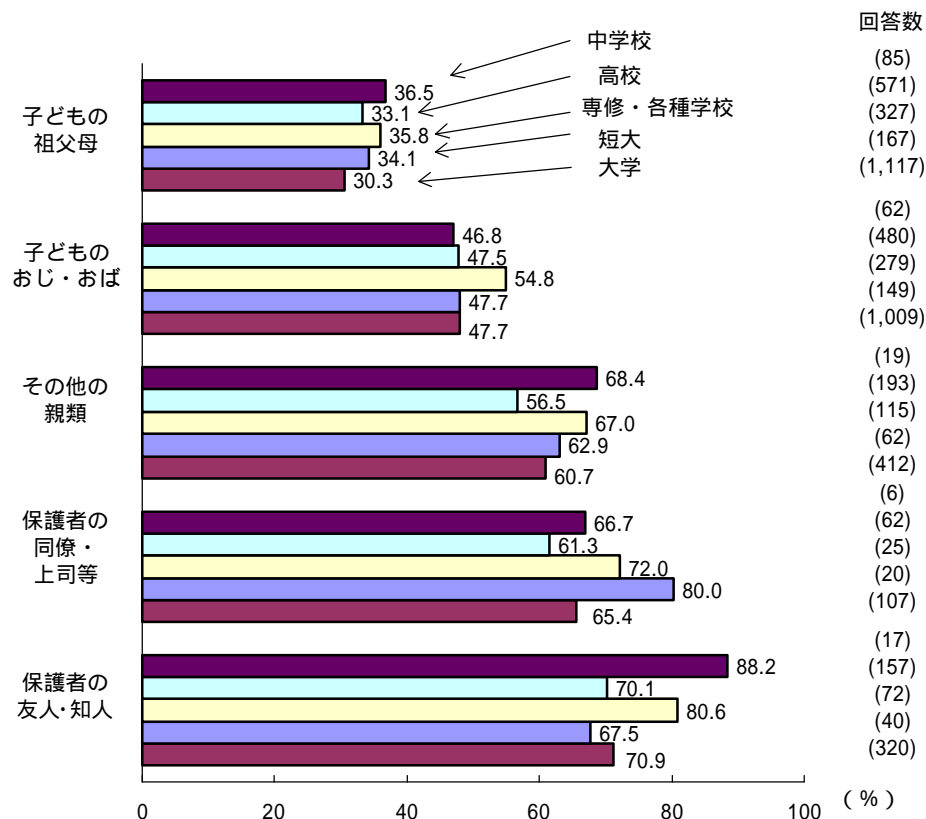
お返しをした割合は、「子どもの祖父母」に対しては30%台、「子どものおじ・おば」に対しては50%前後となった。血縁関係が遠くなるほどお返しをする割合が高い(図-10)。

図-9 入学祝いの贈り主1人当たりの現金・金券の平均金額(入学先別)



注1: それぞれの贈り主から現金・金券をもらった世帯について集計したものである。
 注2: 贈り主の人数と金額のいずれも回答した世帯を集計した。

図-10 現金・金券の贈り主に対してお返しをした割合(入学先別)



注1: 図-9と同じ。
 注2: お返しの有無について回答した世帯を集計した。

(4) 入学祝いをもらう側の意識 - 入学祝いの習慣が「あったほうがよい」とした割合は37%、お返しを「負担に感じている」割合は64% -

入学祝いを贈られる側に入学祝いを贈る習慣について尋ねたところ、「あったほうがよい」と考えている世帯の割合は36.8%、「なくしたほうがよい」と考えている世帯の割合は16.6%となった(図-11)。

入学祝いの贈り主にお返しをした世帯の中で、お返しをすることを負担に感じている世帯の割合は64.1%にも上った(図-12)。

図-11 入学祝いの習慣についてどう思うか

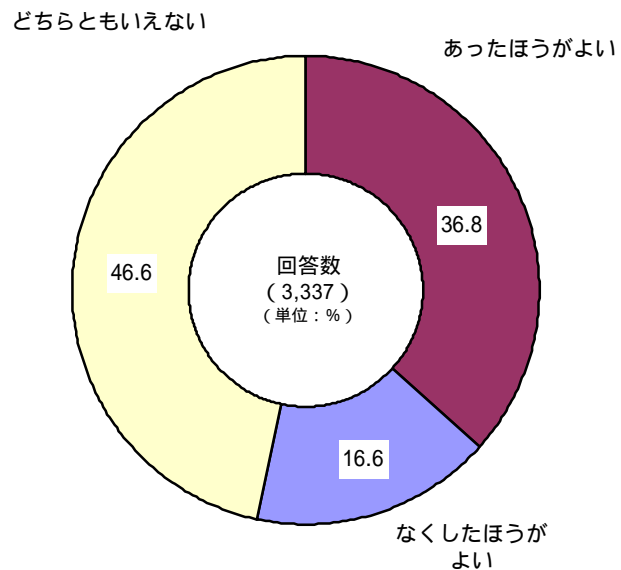
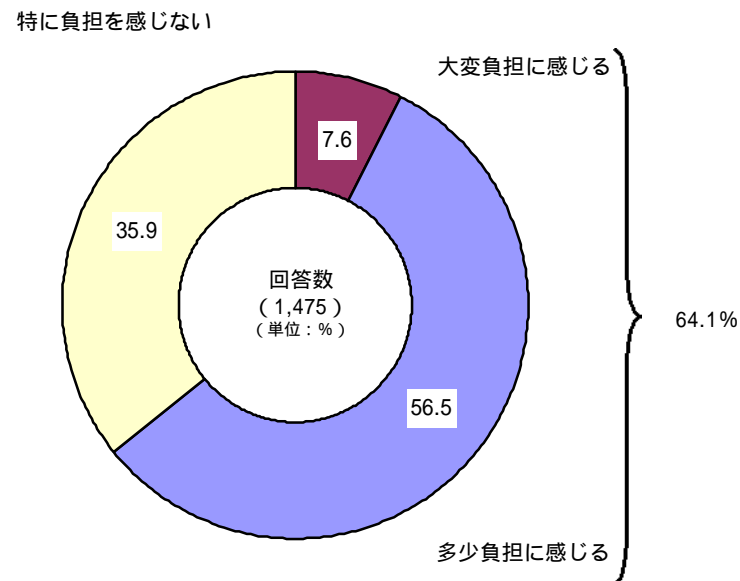


図-12 入学祝いのお返しを負担に感じるか



注：贈り主に対してお返しをした世帯について集計したものである。